

英語科学習指導案

日 時 平成21年9月29日(火)
学 級 盛岡市立巻堀中学校 2年A組
(男子15名 女子10名 計25名)
授業者 教諭 樋口 恵

1. 単元名 Unit 5 A Park or a Parking Area? (NEW HORIZON English Course 2)

2. 単元について

(1) 教材観

本単元は「公園を維持するか、駐輪場にするか」という議論が題材として取り上げられている。妹がけがをして入院したのでいっしょに見舞いに来て欲しい、というファックスから始まり、女の子の事故の原因をめぐるマイクと絵美の対話、「公園をつぶして駐輪場にする」という市の決定を伝える新聞記事、市の決定に反対する意見(新聞への投書)へと場面が展開される。

身近な「地域の問題」を扱いながら、「事実を伝える」「意見を述べる」という言語活動が可能である。Book3,Unit5で、より本格的な「議論」を扱うが、ここでは2年生段階で可能な限りで、「賛成か反対かを述べ、その理由を表現する」ことができるようにしたい。

文法事項は、各種従属接続詞(if, that, when, because)を順番にまとめて扱うことができるようになっている。

(2) 生徒観

本校がある玉山区好摩地区は、駅、銀行、郵便局そして商店街があり地区の中心地である。しかし、人口がそれほど多いわけではなく、本単元のように違法駐輪するほど自転車もあふれているわけではない。また、自然豊かな土地に住んでいるので人工的に作られた緑地である公園に対しても親近感がない。「公園を維持するか、駐輪場にするか」と言った議論は本校の生徒たちにはあまり馴染まない。しかし、盛岡の中心地も生活圏内である生徒たちは、盛岡市駅周辺に駐輪してある自転車など目にする機会が多い。どういう状況かということは容易に想像がつくと思われる。

また、学級会などの話し合いでは自分の意見を積極的に述べる生徒は少ない。これまでディベートのような活動をしたことも無いので、この単元を通して「賛成、反対」そして理由を述べるという、英語での議論形式に慣れさせていきたい。

(3) 指導観

本単元では、if, that, when, becauseといった従属接続詞を導入する。if節は「もし・・・ならば」という条件を、when節は「・・・する(した)時」を、because節は「理由」を表すという節の機能を示し、場面・状況に応じて適切に使えるようにしたい。また、that節についてはthatについて深く触れず、むしろI think～で自分の個人的な意見、考えを述べる表現として指導し

たい。

Reading for Communication ではある話題に対して、自分の意見を英語で書いたり、学校や地域での出来事について記事を書いたりする活動を行いたい。そのために、音読に重点を置いた指導を行うことによって教科書にある有用な表現をインプットし、その表現を用いて書く活動を行えるようにしたい。

(4) 指導の工夫

書く力をつけさせたい。書くためには、文法の知識、語彙力、表現力さらにまとまった文をかくには構成力が必要となってくる。書くために必要なこれらの知識を音読、ペア活動、グループ活動、宿題の工夫によって身につけさせたい。音読はスラッシュを必ず入れ、語彙のまとまりとスピードを意識させた練習をする。また、ペアで練習する時は語彙のまとまりとそれに対比する日本語の意味を意識させた練習をする。グループ活動では書いた文をお互いに交換し、与えられた観点に基づいて添削しあう。さらに、宿題として音読と視写をやらせる。また、モデルの文を提示することによって、文を書くときの手がかりとさせたい。

また、場面・状況に応じて適切な表現を使って書けるようにするためには、文の持っている機能を知る必要がある。基本文、重要文を指導する時は、機能も一緒に提示し、習得した英文を使えるようにさせたい。

3. 単元の目標

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・ディレンマが生じる問題に対して賛否の論点を整理し、解決法として自分の意見を積極的に述べようとする。
- ・学校や地域での身近な出来事について英語で書こうとする。

(2) 表現の能力

- ・各従属接続詞を用いて、文を表現することができる。
- ・ある話題について、賛成か反対かの自分の意見とその理由を表現することができる。
- ・学校や地域での身近な出来事について英語で書くことができる。

(3) 理解の能力

- ・各従属接続詞を用いた条件や理由、個人的な考えなどの内容を正しく理解することができる。
- ・新聞記事として書かれた本文を読んでその内容を理解することができる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

- ・各従属接続詞を用いた文の構造、意味、用法を正しく理解することができる。

4. 指導計画及び単元の評価規準（別紙）

5. 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①グループでの発表に積極的に参加している。
- ②自分の考えを英語で表現することができる。
- ③I think～.を使った文の形、意味、用法を理解することができる。

(2) 本時の評価規準と具体的評価

	評価規準	評価場面	具体的評価基準		Cへの支援
			A 十分満足	B 概ね満足	
コミュニケーションへの意欲・関心・態度	グループでの発表に積極的に参加している。	学校(教室)に必要なものは何かのグループごとの発表。	自分の考えを積極的に発表しようとしたり、友達の意見に対して積極的に意見を述べようとしたか。	自分の考えを積極的に発表しようとした。	テーマについて日本語で質問し、考えを引き出す。
表現の能力	自分の考えを英語で表現することができる。	グループで学校に必要な物が何だと思いか自分の考えを発表しあう。	学校に必要な物は何か表現することができ、その理由も書くことができる。	学校に必要なものは何か自分の意見を表現することができる。	Tool boxなどを参照させながら、自分の意見を言えるように支援する。
言語知識・文化に関する理解	・I think～.を使った文の形、意味、用法を理解することができる。	・学校に必要なものは何か自分の意見を英語で書く。	・I think～.を使って自分の意見を表現することができ、We think を使ってグループの意見を言うことができる。	・I think～.を使って自分の意見を書くことができる。	・I think を使って書くことのヒントを与える。